



五条悟探偵事務所

七海建人調査会社

Kento Nanami * Satoru Gojo
Jyujyutsukaisen Un-Official Fan Book
Kokudanya&Millenium Lover Presents
20250713









僕は五条悟

失せモノ探しを
生業とする
探偵だよ

……探偵



ええと…
申し訳ない

考え事を
していて

間違えて
入って…

チツチツ



その顔

行き先も
わからなく
なるほどの
悩み事が
あるとみた

違うかい？





何か失くして
困っているのでは
ないかい？



せっかく
迷い込んだのも
何かの縁

話くらい
聞いてあげ
られるよ



失くし…

それは…
いや…

くら…

とにかく
少し休んだ
方がいいね

大丈夫
さあ座って



：七海建人と
申します

小説を書いて
生計を立てて
おりますが

妻も子供も
ありません
気楽なものです

ですが
半年ほど前



子供を
引き取ることに
なったのです

世話になった
恩師の頼み
でした

妻に先立たれ
本人も病で
長くないと



実は私には
子供が
いるんだ

身寄りがなく
親戚にも馴染めず
結局我が家で
引き取ったが

私もこれ以上
世話できそうに
ない

どうか君に
お願いできまいか

独り身の君に
こんなことを
頼むのも
申し訳ないが

他に信頼
できそうな
奴もいない

あの子を

悠仁の世話を
引き受けて
くれまいか

それで
引き受け
ちやったの？

随分と
人がいいね

私は家で
仕事をして
いますから

勤め人よりは
適していると
判断されたの
でしょう

私も最初は
戸惑い
ましたが

明るく
聞き分けの
よい子で



すみません

ご飯くらい
炊けるよ



私も悠仁君の
存在に救われて
いたんです



ですが
いつ頃からか…







ナナミン？



これ以上
一緒に暮らしたら
自分が何を
するか
わからない

そう思い

そのまま
家を出て…



…そうして
こちらへ迷い込んだ
というわけです



なるほど
なるほど

実に面白い





手を上げそうになっただらう？

恩師から預かった
大事な子供に

そりや動揺して
見知らぬ場所にも
迷い込むよねえ



何で慌てて
逃げてきたのか
当ててみせようか



よっぽどな
状態だと
思うけど

このまま
帰宅して
何もなかった
ように
振舞えそ？

.....



だからって
アナタに
どうこうできる
話じゃない

僕の領分はね

失せモノ探し



オマエは
『正魂』を
失くしたんだ

僕なら
取り返せる



そうそう

子供だけど
手はかからない
みたいだからさ

あ

恵?

悪いけど
しばらく
世話頼むよ

いやあ
そう言う
なって

うん



五条さん

家に帰ったら
悠仁君がもう
いなかったの
ですが...



言われた通り
身の回りのモノは
持ってきたね

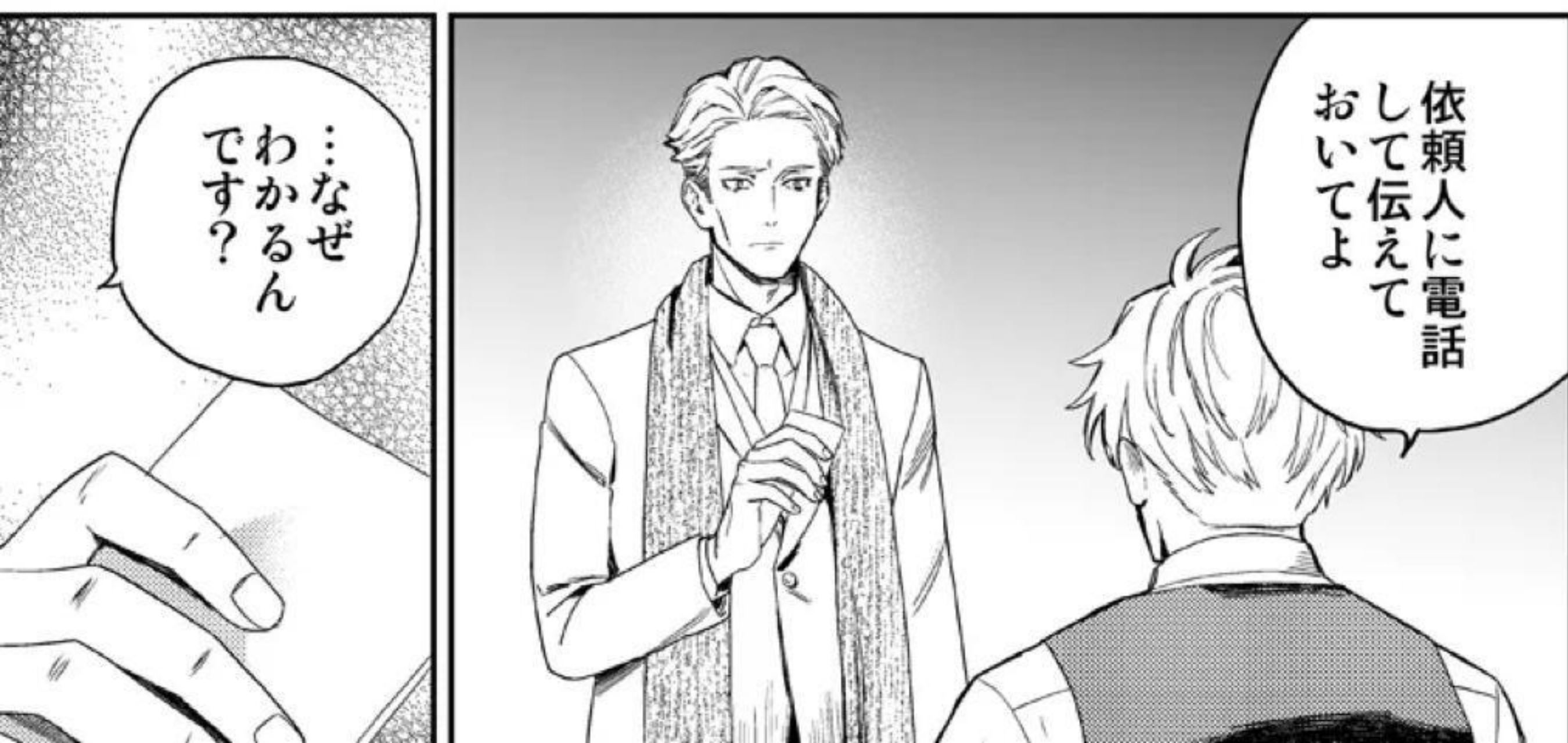
まあ
安心してよ

あの子は
信頼できる
人に預かって
もらったから









いと
糸だよ

いと
糸が見えるんだ

人の心配や
執着

共に過ごした
年月とか
そういう

縁って
やつかな

依頼人の
持ち物から
うすくたどって
探し当てるってわけ

.....







もしかして
官能小説家の
七海建人？

オマエ



そうですか…
それなら
良いですが
何か必要な
ものがあれば…

……



それよりさあ



いやいやいやいや

それが
何か

はあ
—
そうですが

？



えっ…

んん？

え？

んんんん？



これ
七海の本？

へー
ちよっと
読んで後で
ひやかして
や…



んっ



多少
色めいた描写も
入れますが



そりや
商売ですから



間接的だから
よけいこいん
だよ!!!

でも大したことは
書いてませんし
正直何故
売れてるのかも
よくわからない
んですよ





え？

ない



片づけ苦手
だもーん

糸が見えるって
いう話はどう
したんですか



糸ってのは
愛情とか
執着で
生まれるんだ

僕そういうの
ないからさ

僕に糸は
できない



※ビルの別フロアに寝泊まり中

執着がない

シムボ



だから一度失くしたらそれつきりw

執着ってのがないんだろね

あっぱっは

.....



そんなことがあるものだろうか

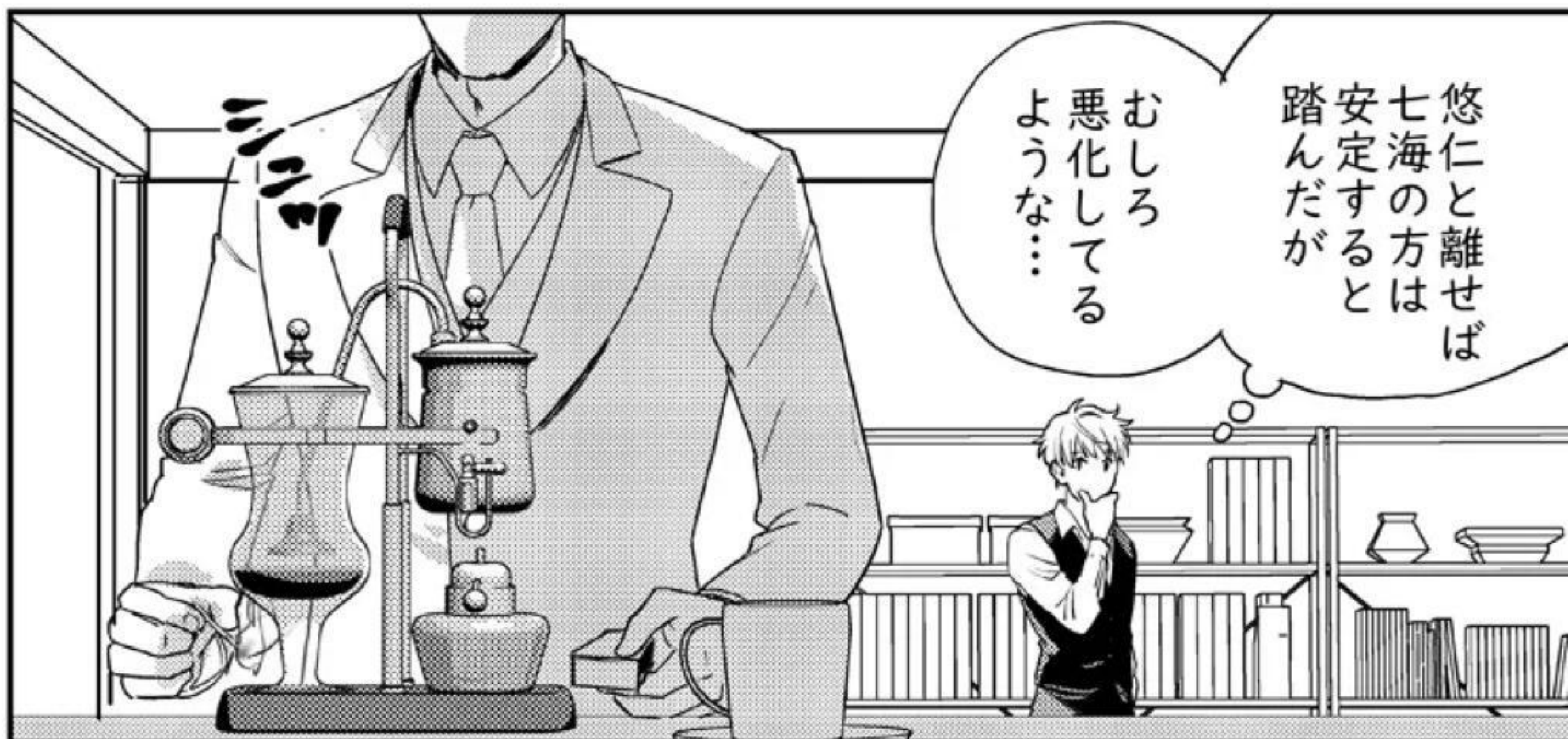
ooc

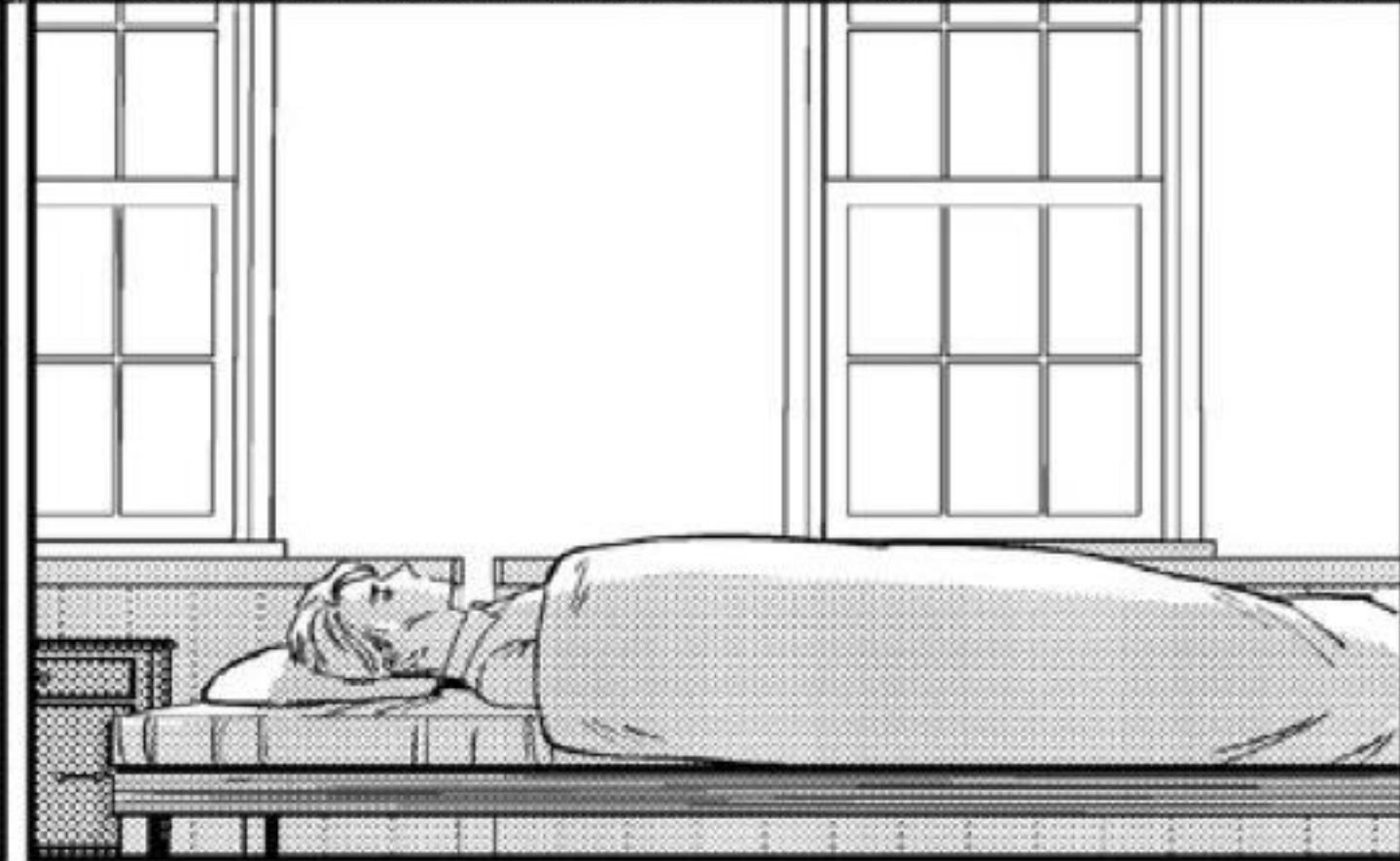


数日後

おはよう
ございます

おはよー





目え
覚めた？

ここは…



僕の知人が
やってる
療養施設だよ

オマエ
いきなり
倒れたの
覚えてる？











呪いだらけ
か…

隠れるのは
諦めたか



あーあ

ひどいね



お邪魔ー



泣いてない？



なっなみー☆

無事？





もうアナタに
任せては
おけません

あー
すっかり
取り込まれ
ちゃって



この子は
私が――

でも内心
焦ってる
かな？



僕がここに
いるなんてさ



…五条さん？

アナタ
一体



誰と
話して
…



悠仁君!!

やれやれ...

仕方ない

ちよつと
乱暴しよつか



思いあがるな
小童が

我が力
完全に復活
していかないでも
思ってたか







この子は
私が保護者
として…



ごめんねー？

いし

オマエの
そういうとこ
好きなんだ
けどね

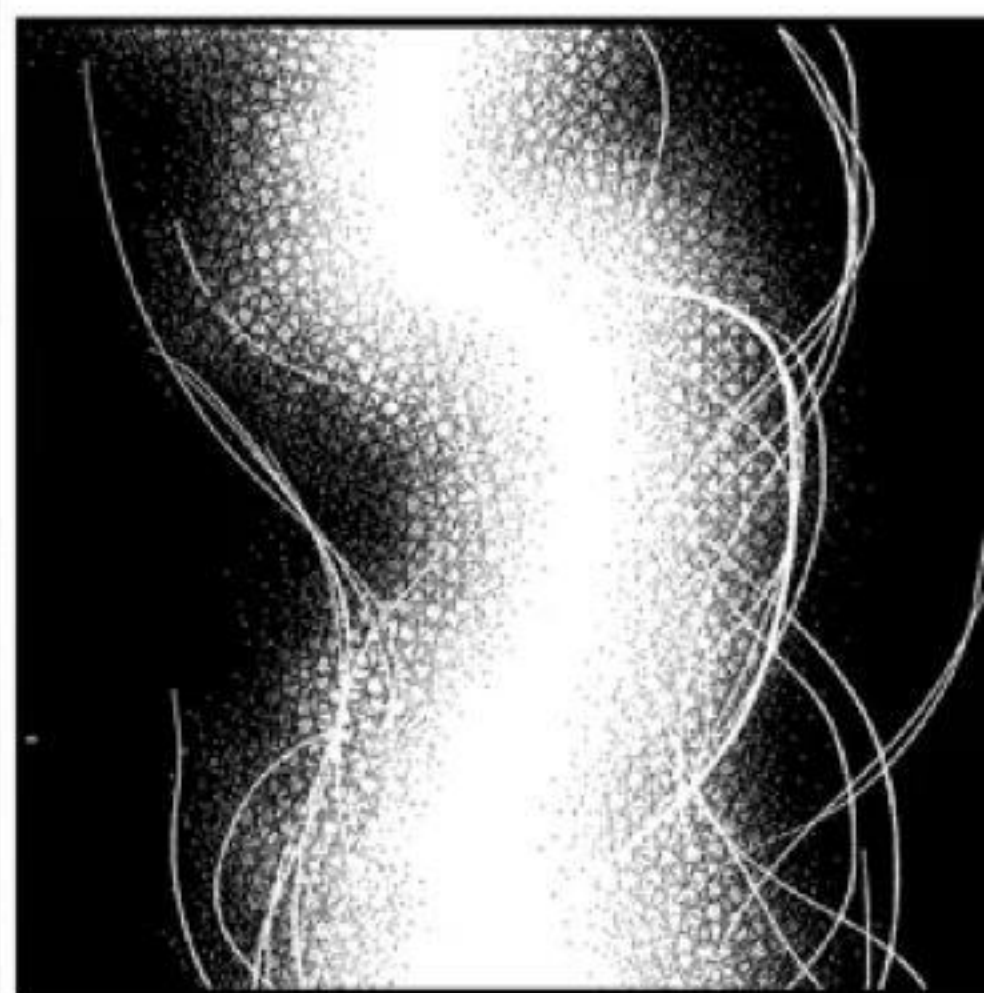


残念だけど



こいつは
オマエの知る
子供じゃない







コイツは
愛するものやに
庇護するものに
対して嫌悪を
抱かせるんだ

……

七海は本当に
悠仁を大切に
してた

そういうのこそ
コイツの恰好の
好物なんだ

さんざん
気味悪がらせて
恐怖に変わった
愛情を喰らう

愛する存在は
嫌悪の対象で
しかなくなり
他者に託される

だがその頃には
精魂まで喰われ
尽くして
衰弱は止まらず
死を待つばかり

こうやって
人の愛とか情が
壊れていく様が
楽しくて仕方ない
奴なんだよ

悪趣味だろ？

ま
安心してよ

これで
その子は
……



五条さん

一体
アナタは……



一体
何者なん

で…

七海

視界の隅で
いつになく
慌てた表情の
探偵が見えた

それで私は
場違いにも
「ああそんな
顔もできるのか」
などと思って
気を失ったのだ



……
悠仁君は

目覚めて
開口一番それ!?

隣の診療室の
ベッドに
寝かせてるよ

それより
オマエだ

ここまで深く
根付いてるとは
思わなかった



根…

正直
甘く見てたよ

オマエほんとに
ギリギリまで
家を出なかつたんだな

よくわかり
ませんが…

先ほど悠仁君から
アレを簡単に
引きずりだした
ように見えました

その根とやらも
同じように…

切れるよ

切れるけど

オマエが
壊れる

言ったら
深く
根付いてるって

オマエの
愛着とか
執着とか

そういう
大事な部分
全部が根と
つながってる

そいつごと
切り落とせば
どうなるか…



ひとつだけ
方法がある



魂交
たまうなぎ

七海の魂と
僕の魂を
糸でつないで
一時的に
同調させる

七海の魂に
張り巡らされた
呪いの根を

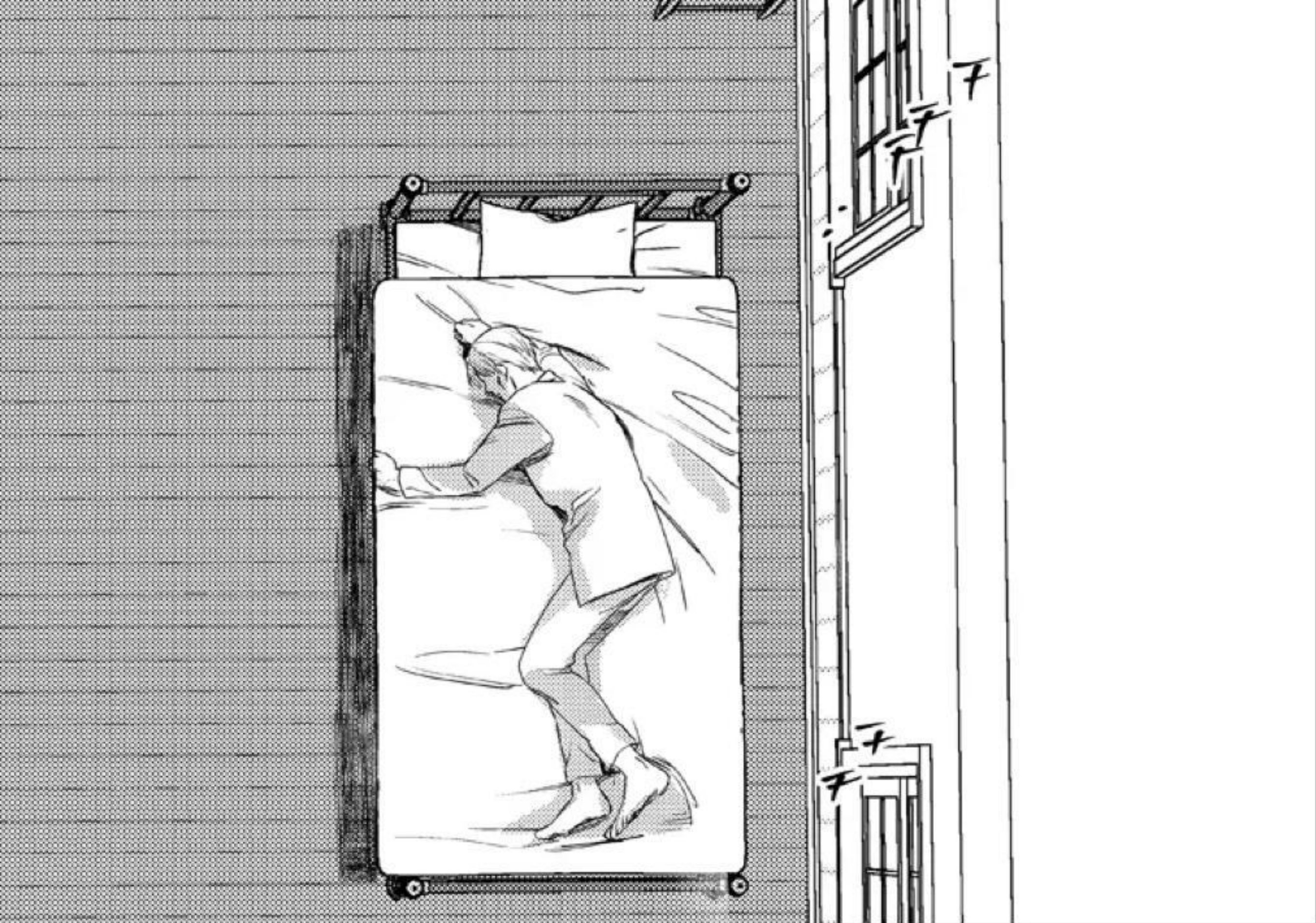
同調させた
僕の魂に
移し替えるんだ





『お代は
これで
いいよ』

そんな声を
聞いた気が
した



身体が軽い

あれほど胸に
巣食っていた
嫌悪感・怒り
苛立ちがない

一体いつぶり
だろうか…

悠仁君



依頼完了

失くしものは
見つかったね



悠仁君

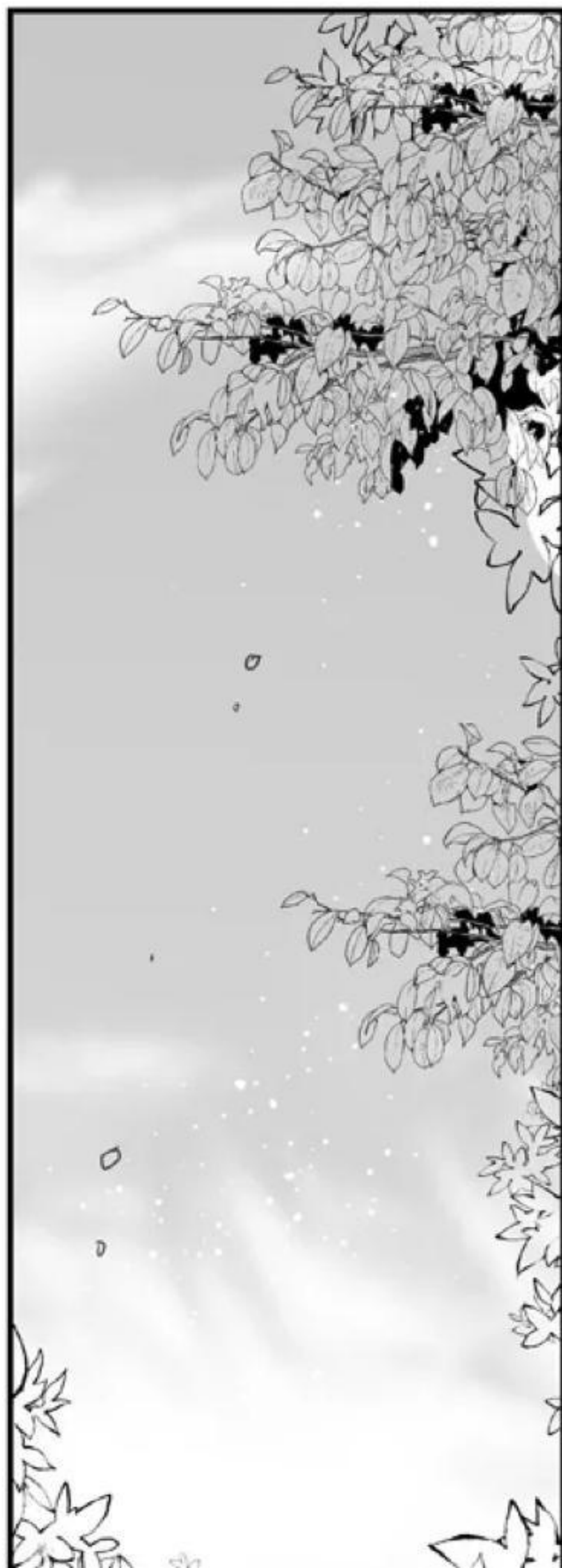
ここの他に
誰か…

え？



いえ…

何でも
ありません





それは
言葉にできぬ
喪失感だった

それは言葉に



ナナミーン

そろそろ
でかける
時間じゃ
ないの？



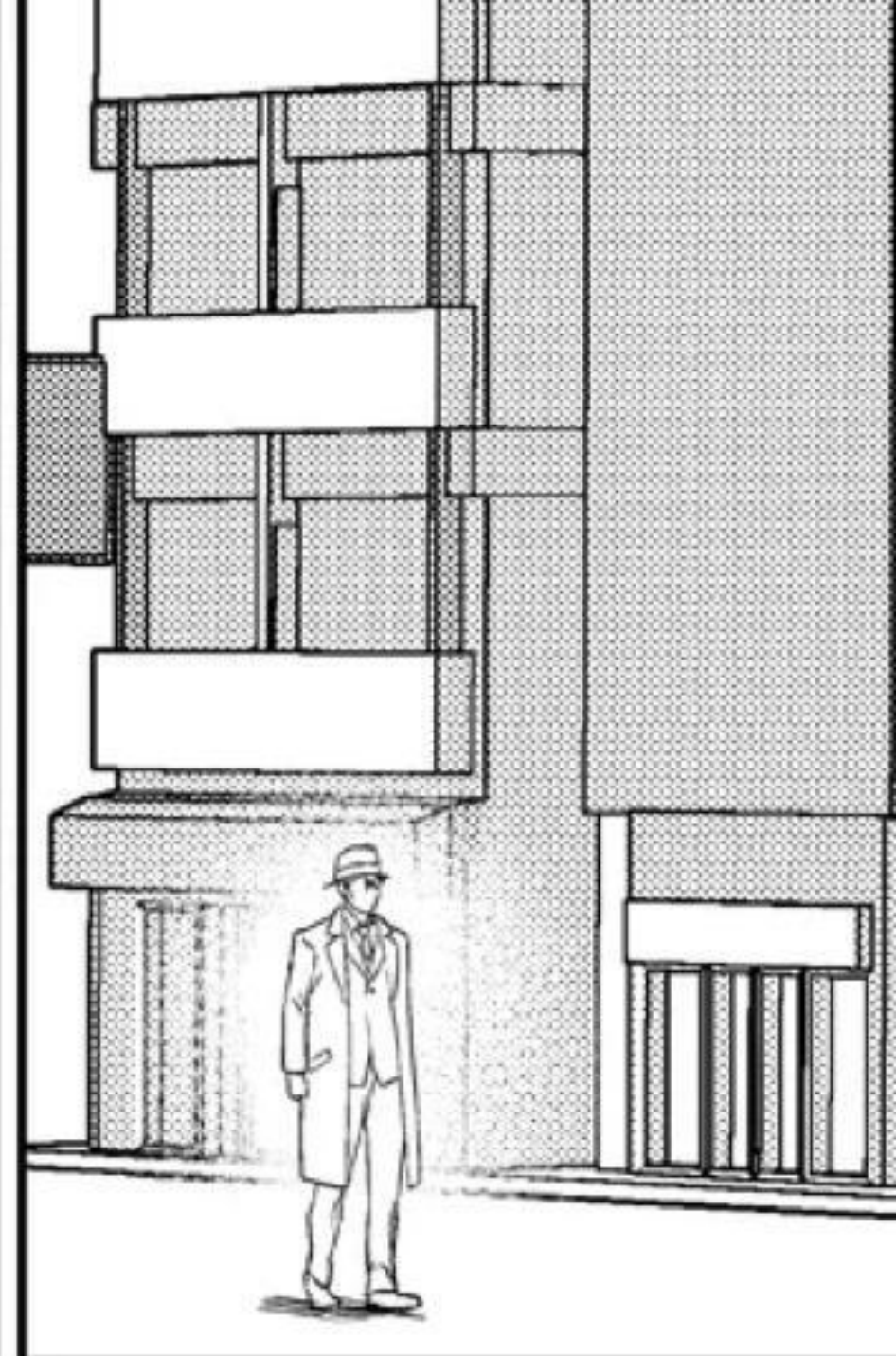
おしろ子供の
まっすぐさに
驚かされる
ばかりだ

あれ以来
悠仁君に
嫌な気配を感じる
ことはない



ああ

もうそんな
時間ですか





はじめての
お客さん
だね

ウチのこと
誰かに
聞いてきた？

あの日の
言葉は
本当だった

私についた
呪いを消す
代わりに
自分の記憶も…

失くしものを

探してくれるん
ですよ











責任を
とらせて
ください



そうは
いきませんよ

じゃ
どうしろ
っての

責



任



えいがいがいがいがい
ちよいとまひて責任て責任て

そいついふことか？

僕七海に一生世話されちやうどの？

一生？

七海の小説みたいなの？

七海の官能小説みたいなの？

あのじわじわとねちねち

えろっちい小説みたいなの

一生七海にめいわく



私をここで
雇ってください



自覚もなく
何でも失くして
いく人を放って
おけませんから



ええと

三つ指について
お出迎えとかか
した方がいい...?

は？

せじ
せじ



アナタがこれ以上
大切なものを
失くさないよう

私がそばで
見張っていますよ